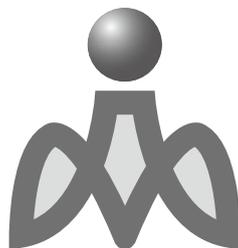


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和7年4月～6月実績〕
〔令和7年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

第1四半期 令和7年4月～6月期 「調査時点：令和7年6月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

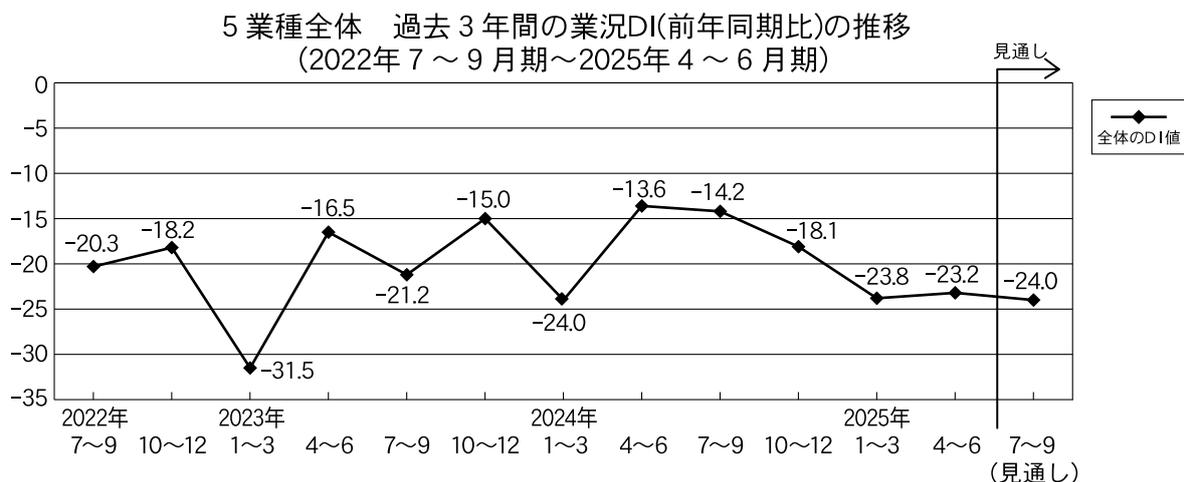
本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

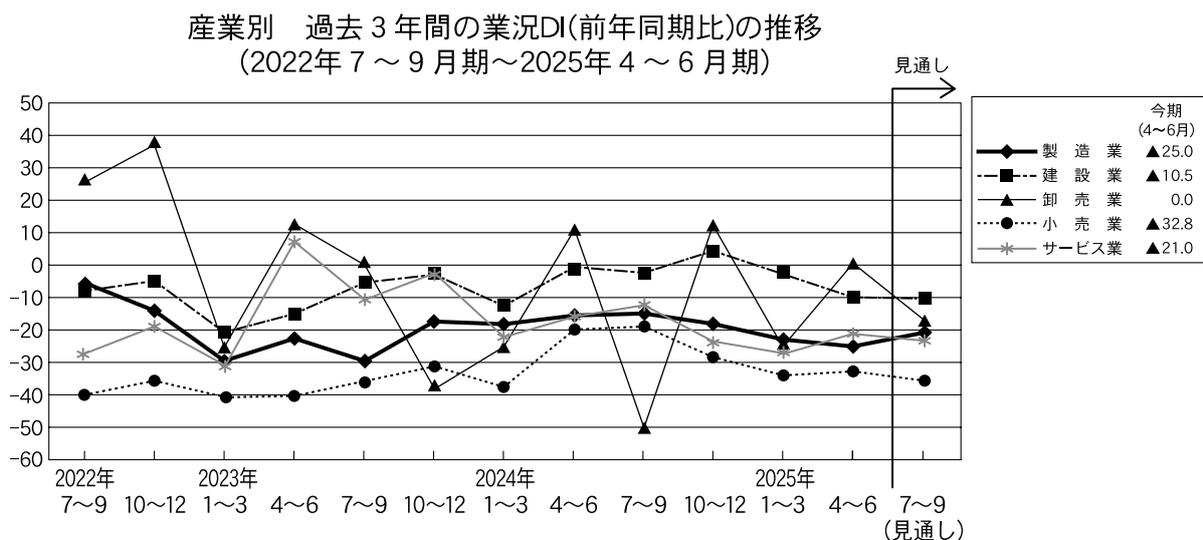
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D I（前年同期比）は▲23.2であり、前期比で+0.6ポイントと4期ぶりに改善した。しかしながら来期見通しは▲24.0へとまた悪化の見通しとなっている。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

製造業は▲25.0で前期比▲2.3ポイント、建設業が▲10.5で前期比▲8.0ポイント、卸売業が0.0で前期比+25.0ポイントの大幅改善、小売業が▲32.8で前期比+1.0、サービス業が▲21.0で前期比+6.3ポイントであった。

来期は、今期の数字に比べて製造業が改善の見通し、建設業が今期同様、小売業・サービス業が若干の悪化、卸売業が悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業（回答企業164）に甲府・富士吉田地域等からの105企業を含めた269サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

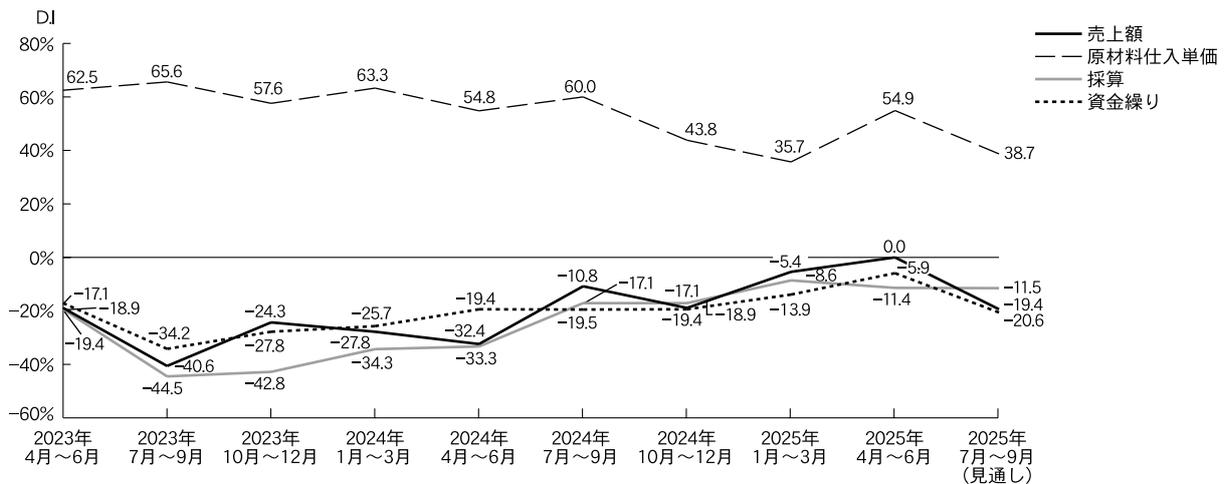
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期0.0と前期比で5.4ポイント改善し、22年7-9月期以来の中立状態へ復帰したが、来期は▲19.4へ大きく悪化の見通し。原材料仕入単価D Iは、今期54.9と前期比で19.2ポイント上昇（悪化）したが、来期は38.7へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期は▲11.4と前期比で2.8ポイント悪化し、来期は今期同様の▲11.5の見通しである。資金繰りD Iは、今期▲5.9と前期比で8.0ポイント改善したが、来期は▲20.6へ悪化の見通しである。

今期は売上額D I、資金繰りD Iが改善、原材料仕入単価D I、採算D Iが悪化した。来期は原材料仕入単価D Iが改善、売上額D I、採算D I、資金繰りD Iが悪化の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

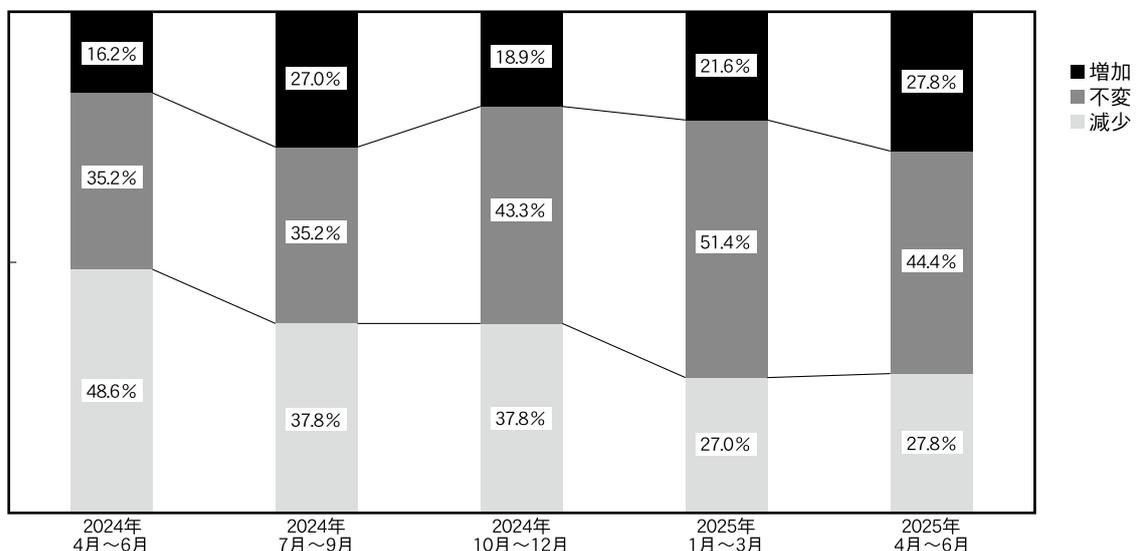
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数36社（前回37社）））

「増加」と答えた企業の割合は、27.8%（10社）に増加（前期比+2社）している。

「不変」は44.4%（16社）に減少（前期比▲3社）し、

「減少」は27.8%（10社）に増加（社数は変化なし）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D Iの内容（回答企業数35社））

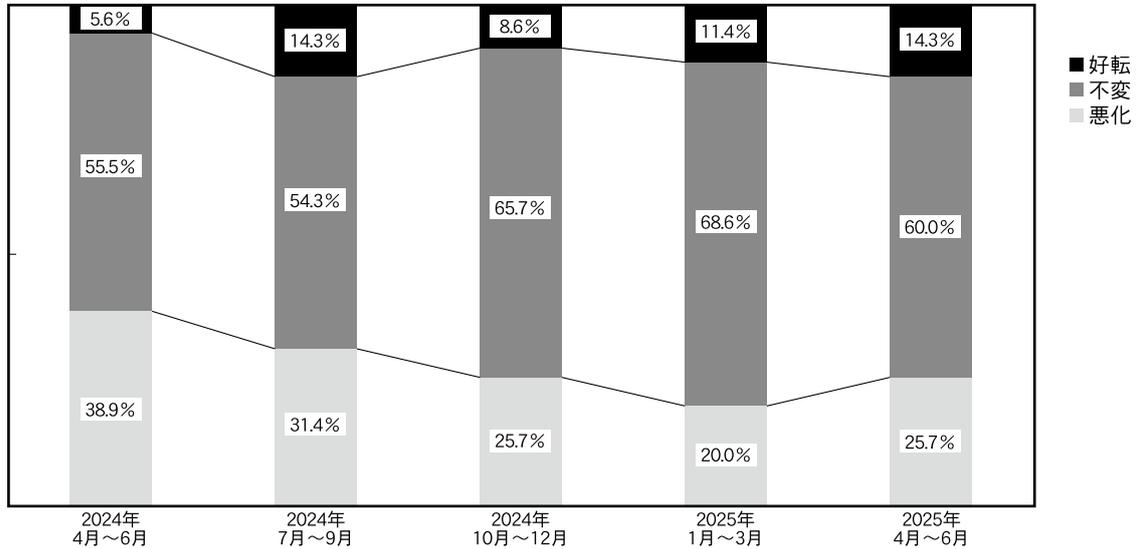
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、14.3%（5社）に増加（前期比+1社）している。

「不変」は60.0%（21社）に減少（前期比▲3社）、

「悪化」は25.7%（9社）に増加（前期比+2社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

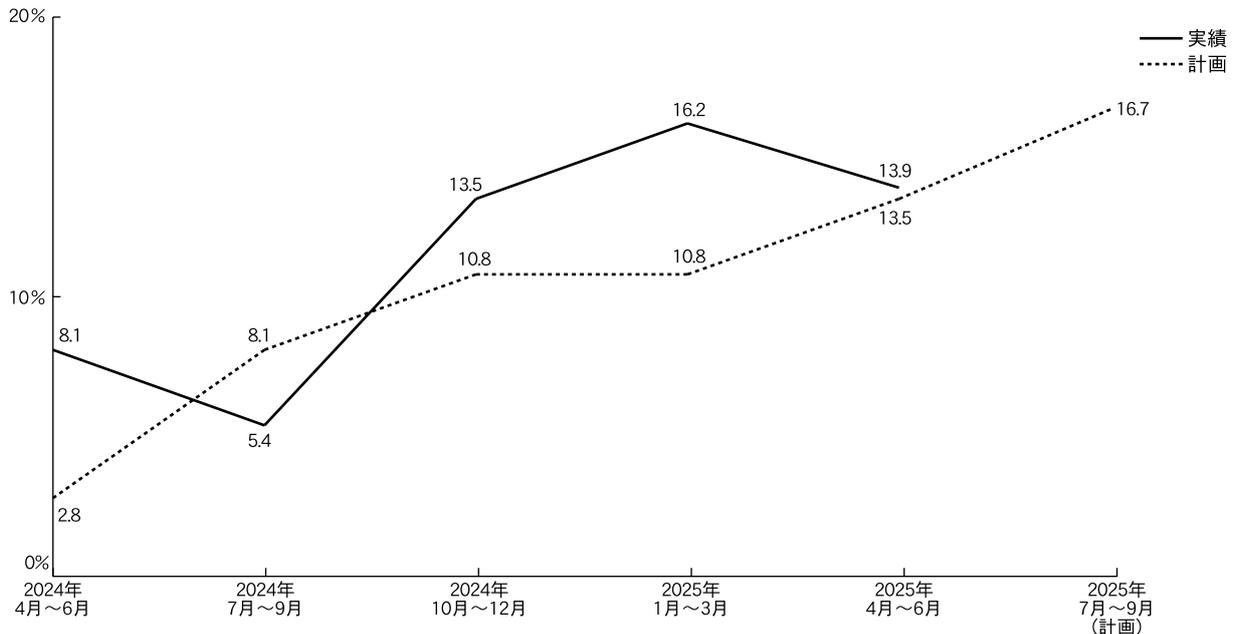


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数36社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は13.9%（5社）であった。その設備投資の内容は、「付帯施設」「OA機器」が2件、「生産設備」「車両・運搬具」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、16.7%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「その他」が2件、「工場建物」「生産設備」「車両・運搬具」「OA機器」が1件ずつである。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数33社）

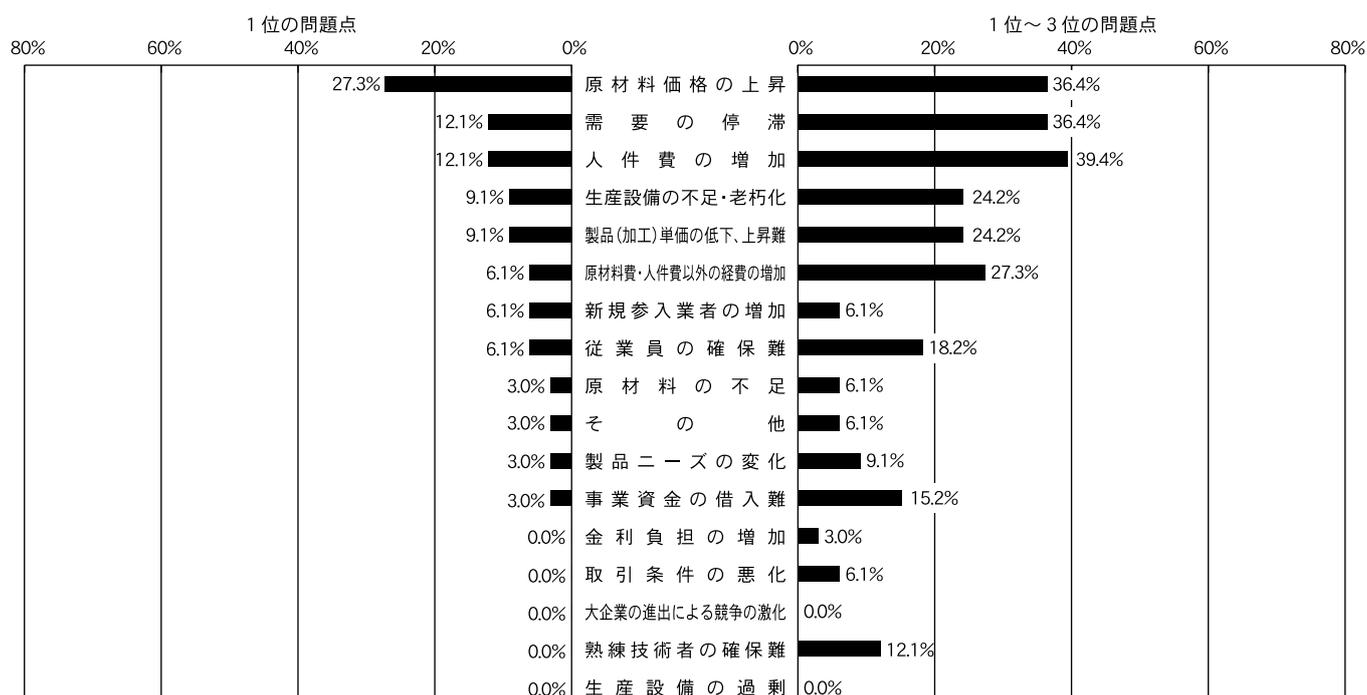
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の27.3%（9社）であり、2番目は「需要の停滞」「人件費の増加」の12.1%（4社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらは、1番目に多かったのが「人件費の増加」の39.4%（13社）であった。2番目に多かったのは「原材料価格の上昇」「需要の停滞」の36.4%（12社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	13.9
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.8
印刷・同関連業	2	5.6
化学工業	1	2.8
プラスチック製品製造業	3	8.3
金属製品製造業	3	8.3
一般機械器具製造業	13	36.0
電気機械器具製造業	2	5.6
精密機械器具製造業	1	2.8
その他製造業	5	13.9
合計	36	100.0

従業員規模別

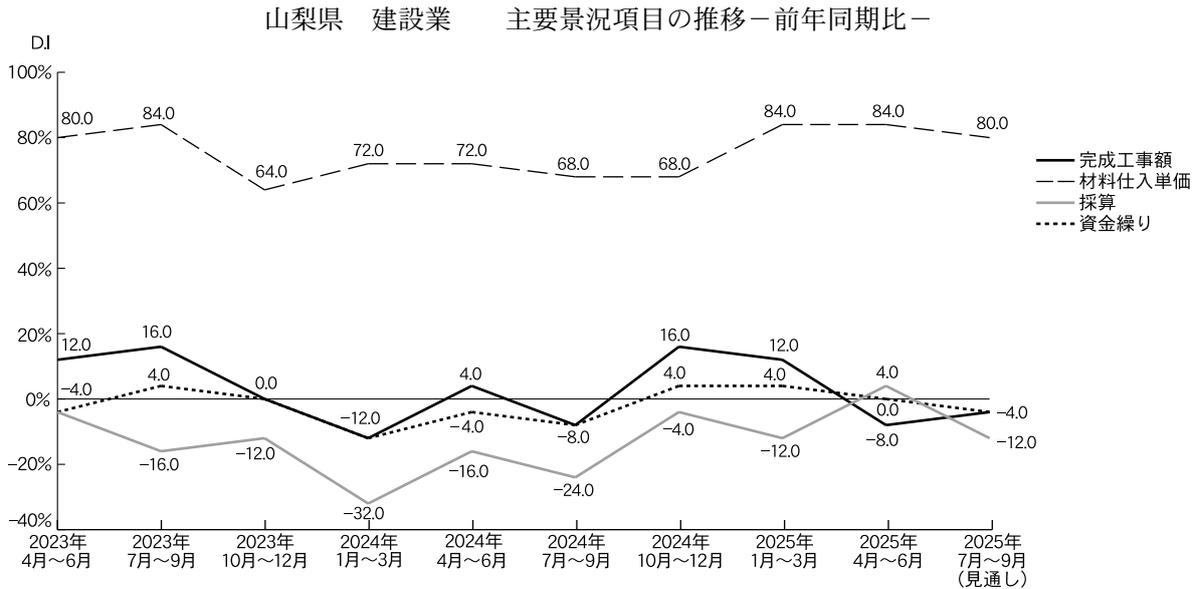
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	18	50.0	15	41.7
3人～5人以下	9	25.0	7	19.4
6人～10人以下	6	16.7	10	27.8
11人～20人以下	3	8.3	4	11.1
合計	36	100.0	36	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額DIは、今期▲8.0と前期比で20.0ポイント大きく悪化したが、来期は▲4.0へ改善の見通し。材料仕入単価DIは、今期84.0で前期と変化無しだったが、来期は80.0へ下降（改善）の見通しである。採算DIは、今期4.0と前期比で16.0ポイント改善し、来期は▲12.0へ悪化の見通し。資金繰りDIは、今期0.0と前期比で4.0ポイント悪化し、来期はさらに▲4.0へ悪化の見通しである。

今期は採算DIが改善し、材料仕入単価DIは変化なし、完成工事額DI、資金繰りDIは悪化した。来期は完成工事額DI、材料仕入単価DIが改善の見通しで、採算DI、資金繰りDIが悪化の見通しとなっている。



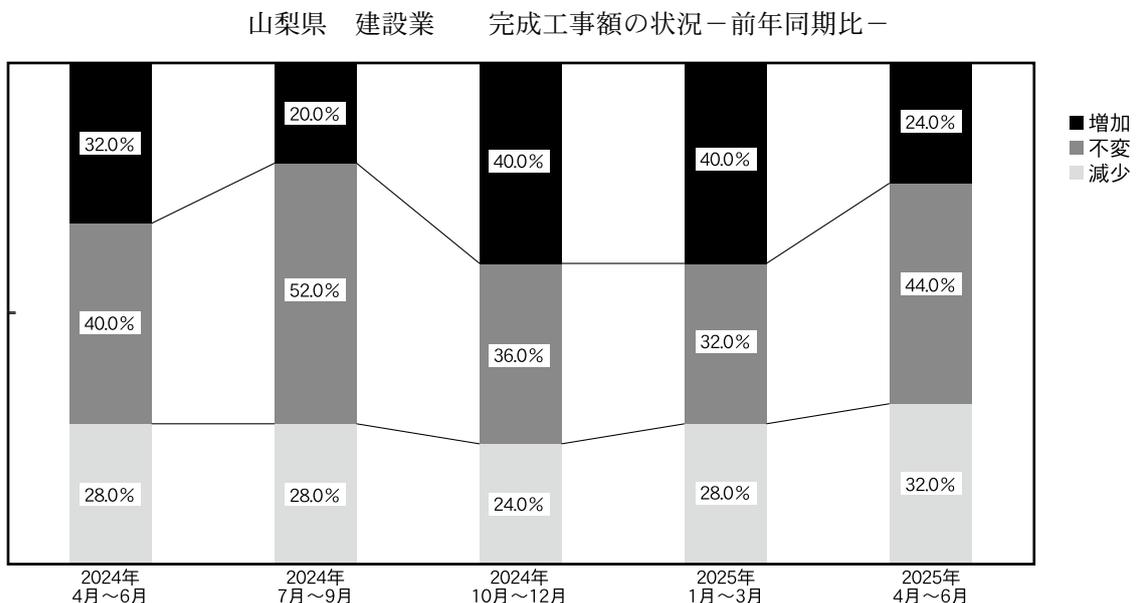
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額DIの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、24.0%（6社）に減少（前期比▲4社）している。

「不変」は44.0%（11社）に増加（前期比+3社）、

「減少」は32.0%（8社）に増加（前期比+1社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

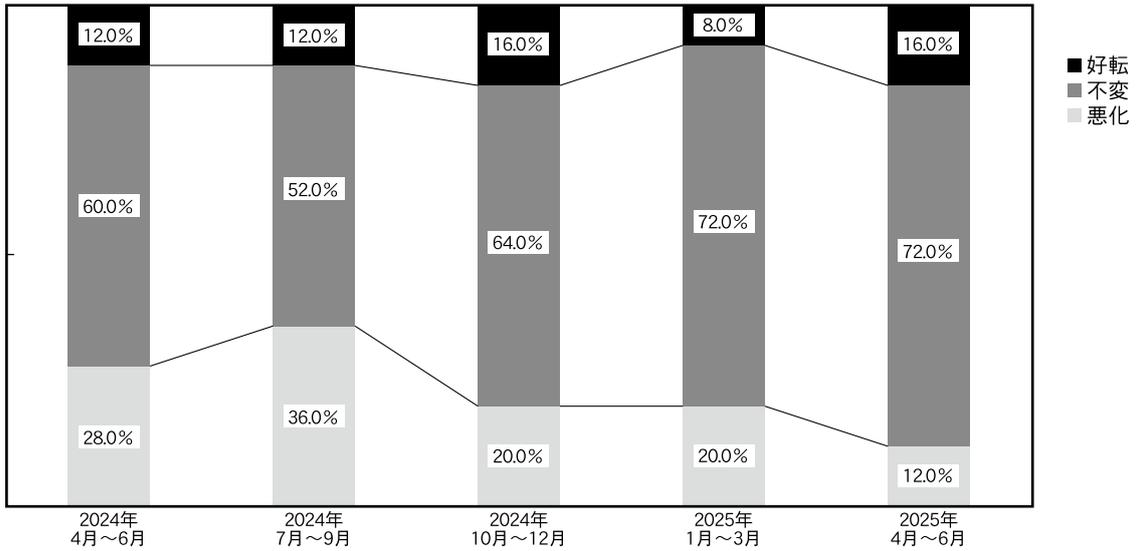
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.0%（4社）に増加（前期比+2社）している。

「不変」は72.0%（18社）で前回と変化なし、

「悪化」は12.0%（3社）に減少（前期比▲2社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

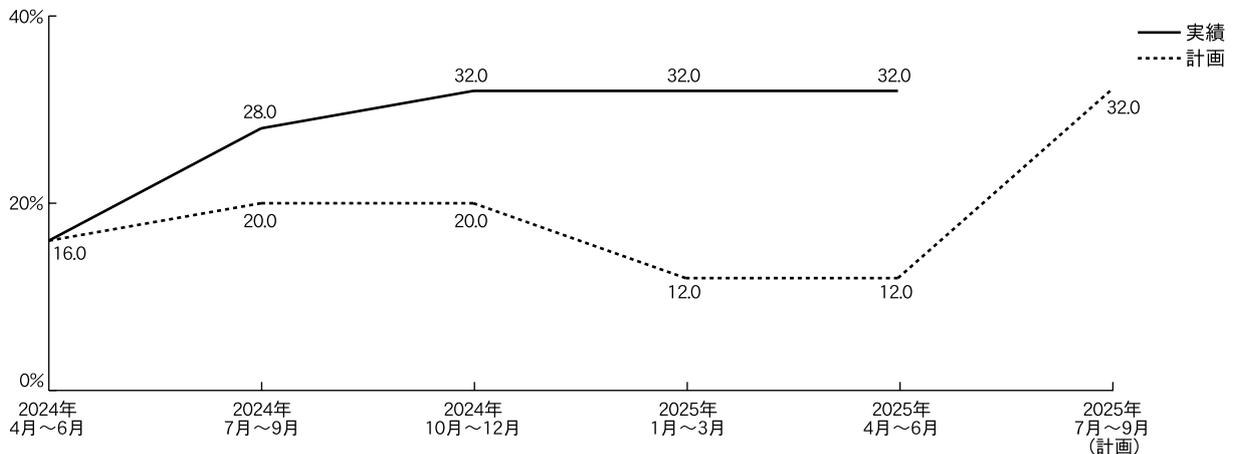


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は32.0%（8社）であった。その設備投資の内容は、「土地」「車両・運搬具」が3件ずつ、「建設機械」「OA機器」が2件ずつ、「建物」「福利厚生施設」が1件ずつであった。

来期の計画についても、32.0%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「車両・運搬具」が4件、「建設機械」が3件、「土地」「建物」「OA機器」が2件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数24社）

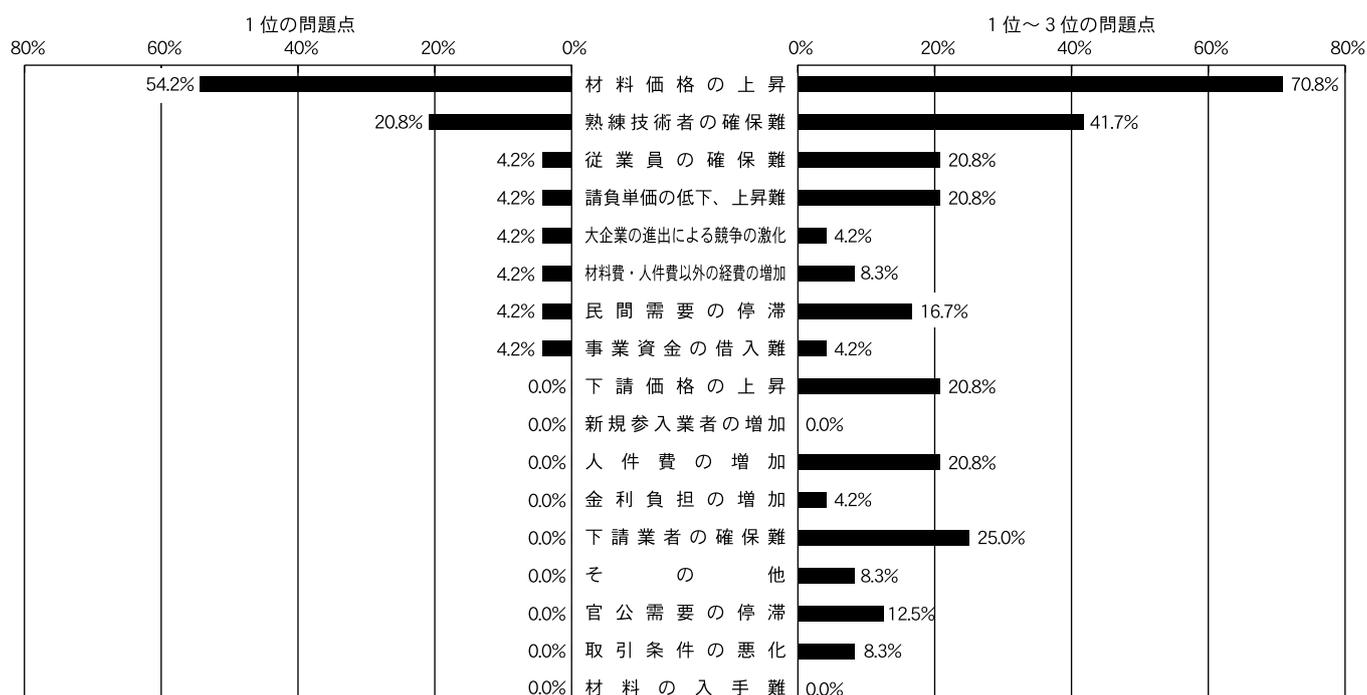
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の54.2%（13社）であり、17期連続。2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の20.8%（5社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料価格の上昇」の70.8%（17社）であり、2番目に多かったのも「熟練技術者の確保難」の41.7%（10社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	4	16.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	6	24.0	7	28.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

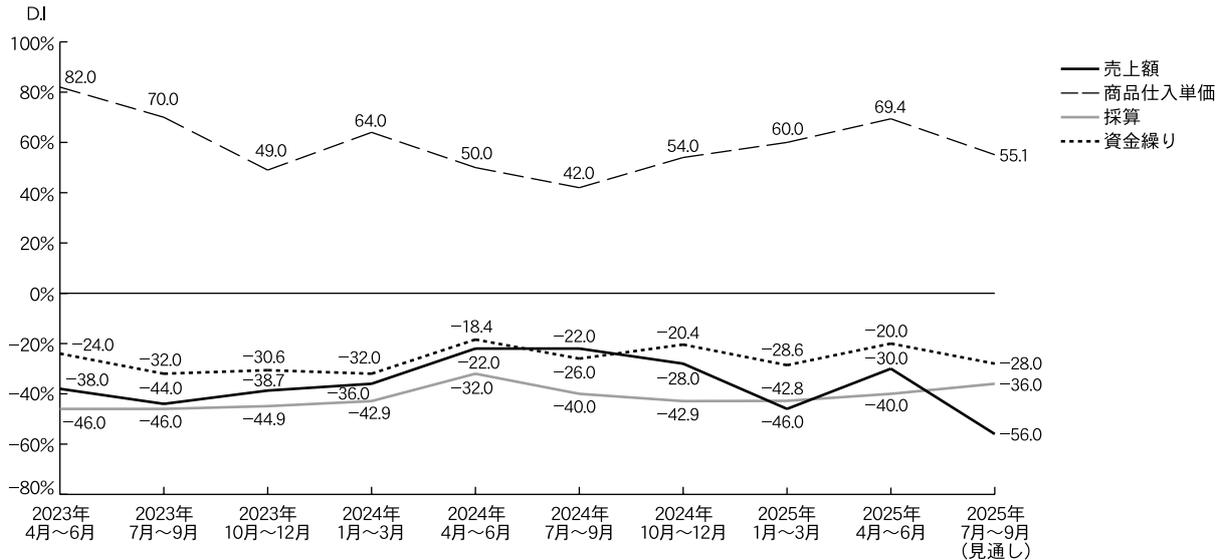
4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲30.0と前期比で16.0ポイント改善したが、来期は▲56.0へ悪化の見通しである。商品仕入単価D Iは、69.4と前期比で9.4ポイント上昇（悪化）し、来期は55.1へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、▲40.0と前期比で2.8ポイント改善し、来期も▲36.0へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲20.0と前期比で8.6ポイント改善したが、来期は▲28.0へ悪化の見通しである。

今期は売上額D I、採算D I、資金繰りD Iが改善し、商品仕入単価D Iが悪化した。来期は商品仕入単価D I、採算D Iが改善の見通し、売上額D I、資金繰りD Iが悪化の見通しである。

山梨県 小売業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

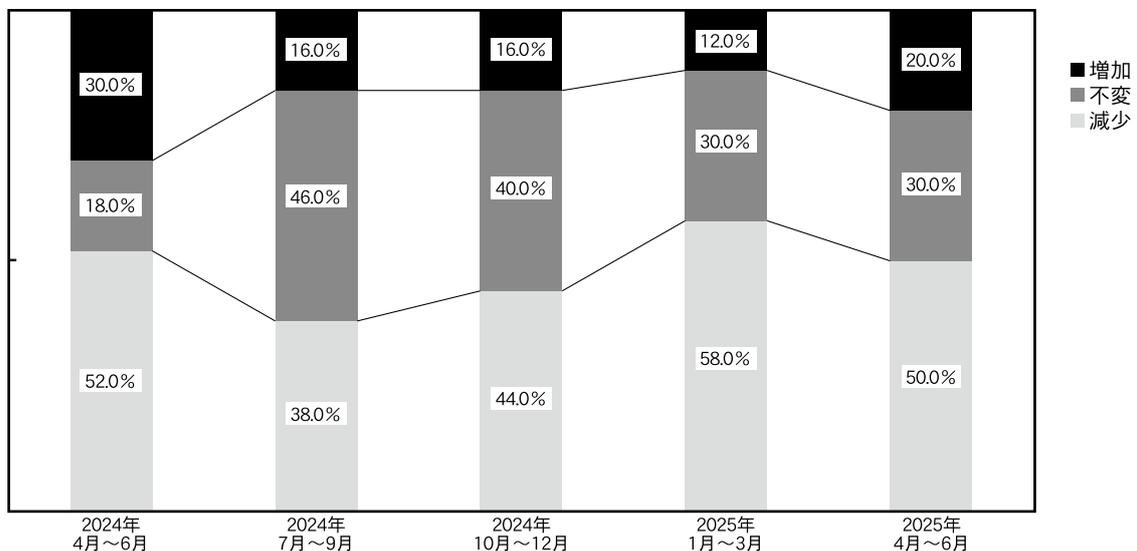
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、20.0%（10社）に増加（前期比+4社）している。

「不変」は30.0%（15社）で前回と変化なし、

「減少」は50.0%（25社）に減少（前期比▲4社）している。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社（前回49社））

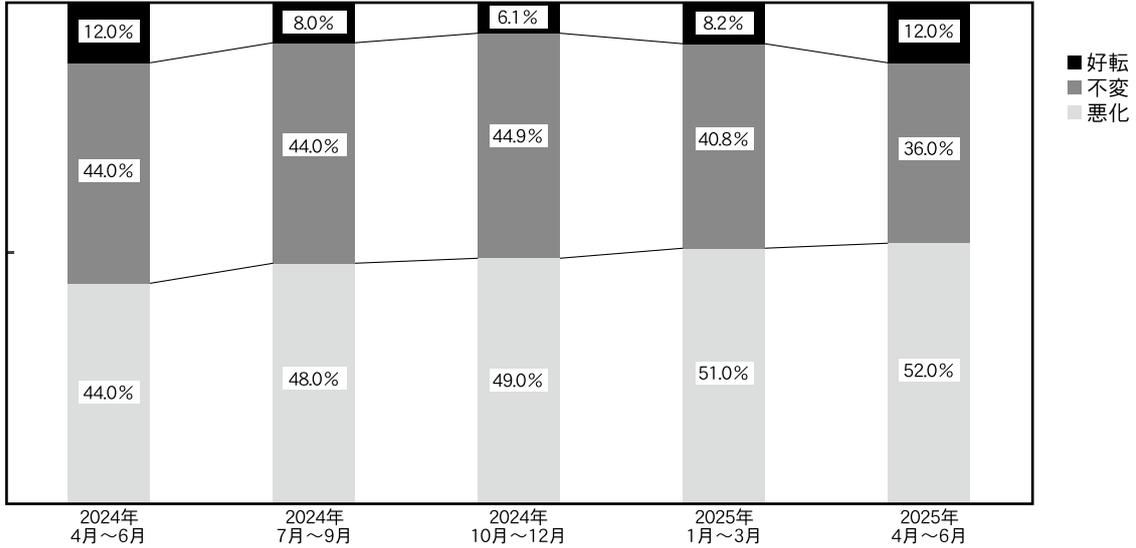
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.0%（6社）に増加（前期比+2社）している。

「不変」は36.0%（18社）に減少（前期比▲2社）、

「悪化」は52.0%（26社）に増加（前期比+1社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

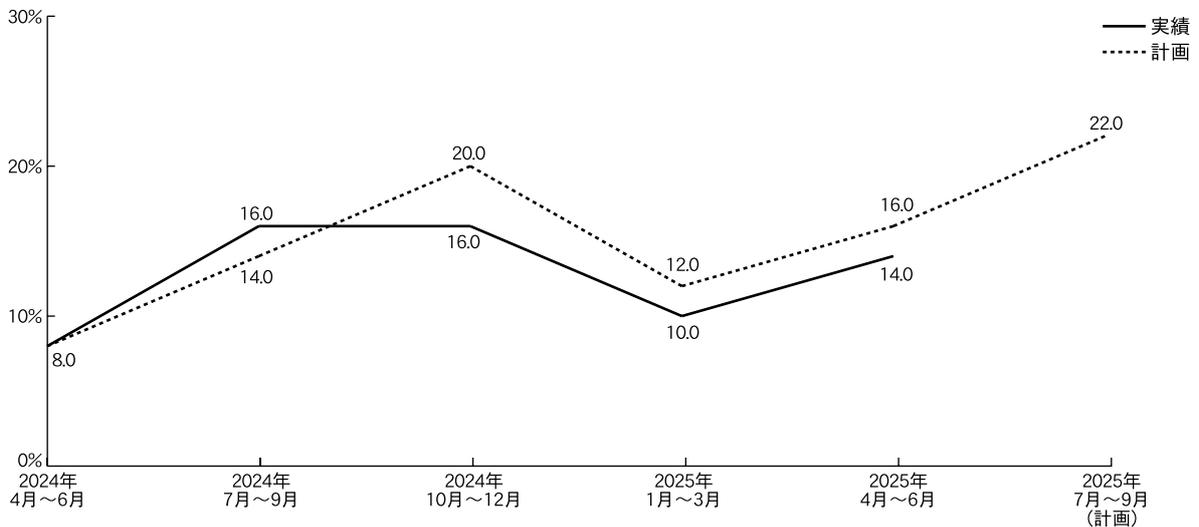


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は14.0%（7社）であった。その設備投資の内容は、「その他」が3件、「販売設備」「車両・運搬具」「付帯施設」「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、22.0%（11社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「店舗」「販売設備」「OA機器」が3件ずつ、「その他」が2件、「土地」「車両・運搬具」「付帯施設」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数46社）

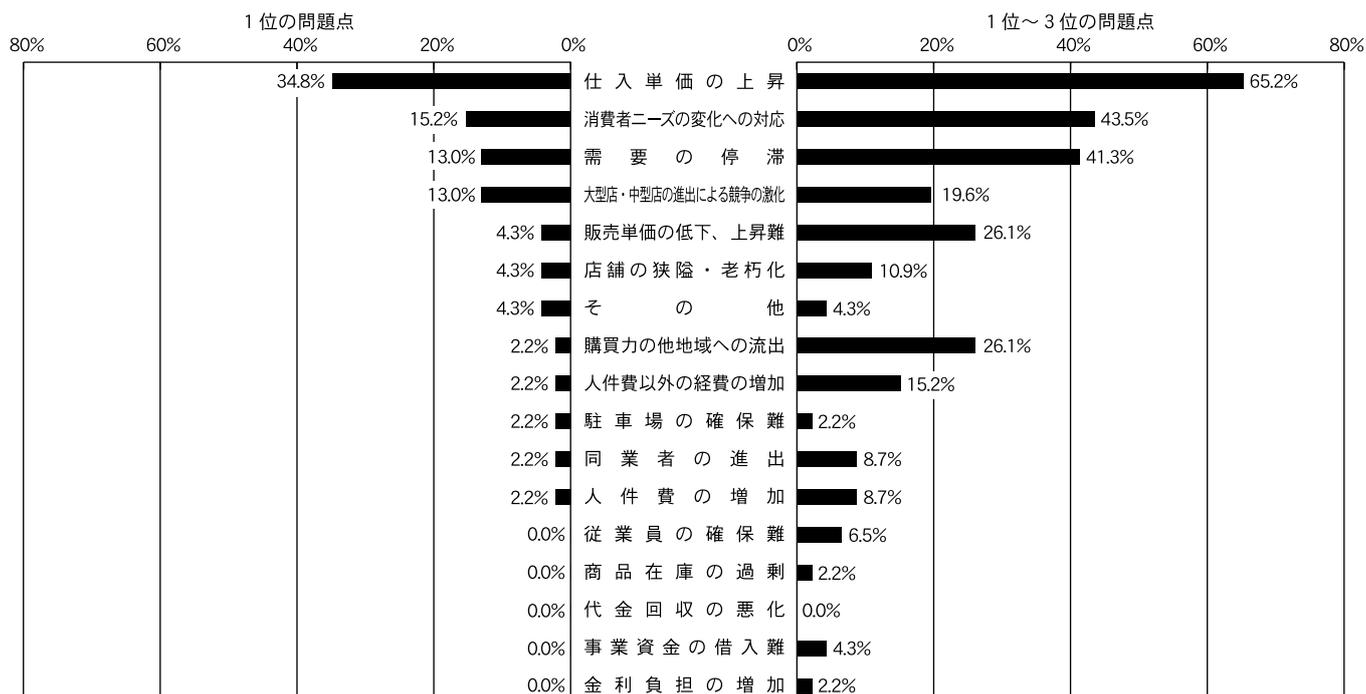
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の34.8%（16社）であり、14期連続。2番目は「消費者ニーズの変化」の15.2%（7社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の65.2%（30社）であり、2番目も「消費者ニーズの変化」の43.5%（20社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22.0
飲食料品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		従業員数	
	常雇い	臨時等含む	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	1	2.0
合計	50	100.0	50	100.0

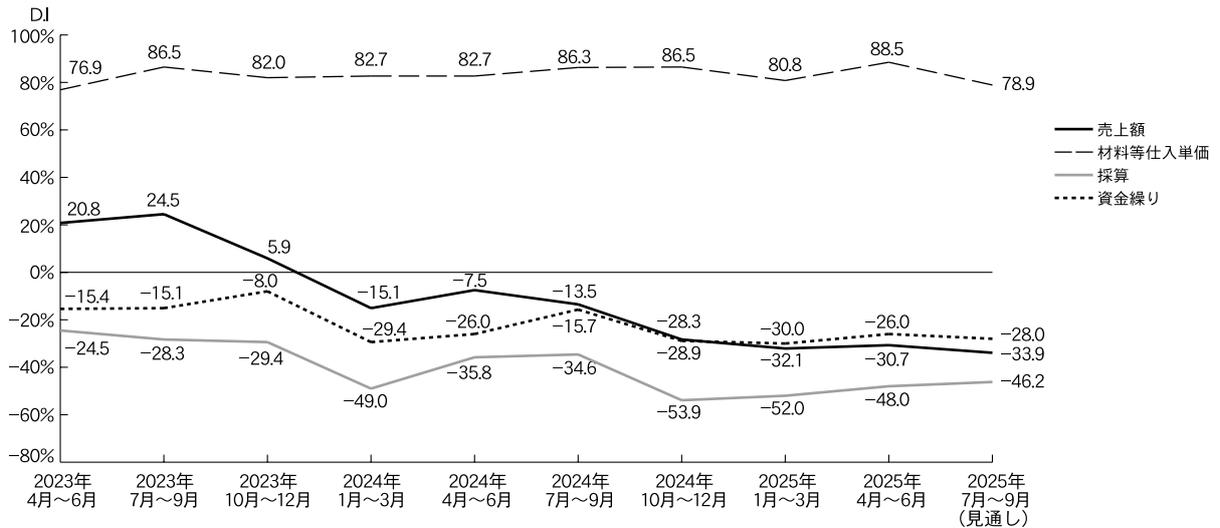
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲30.7と前期比で1.4ポイント僅かに改善したが、来期は▲33.9へ悪化の見通し。材料等仕入単価D Iは、今期88.5と前期比で7.7ポイント上昇（悪化）し、来期は78.9へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲48.0と前期比で4.0ポイント改善し、来期も▲46.2へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲26.0と前期比で4.0ポイント改善したが、来期は▲28.0へ悪化の見通しである。

今期は売上額D I、採算D I、資金繰りD Iが改善、材料等仕入単価D Iが悪化した。来期は、材料等仕入単価D I、採算D Iが改善の見通し、売上額D I、資金繰りD Iが悪化の見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

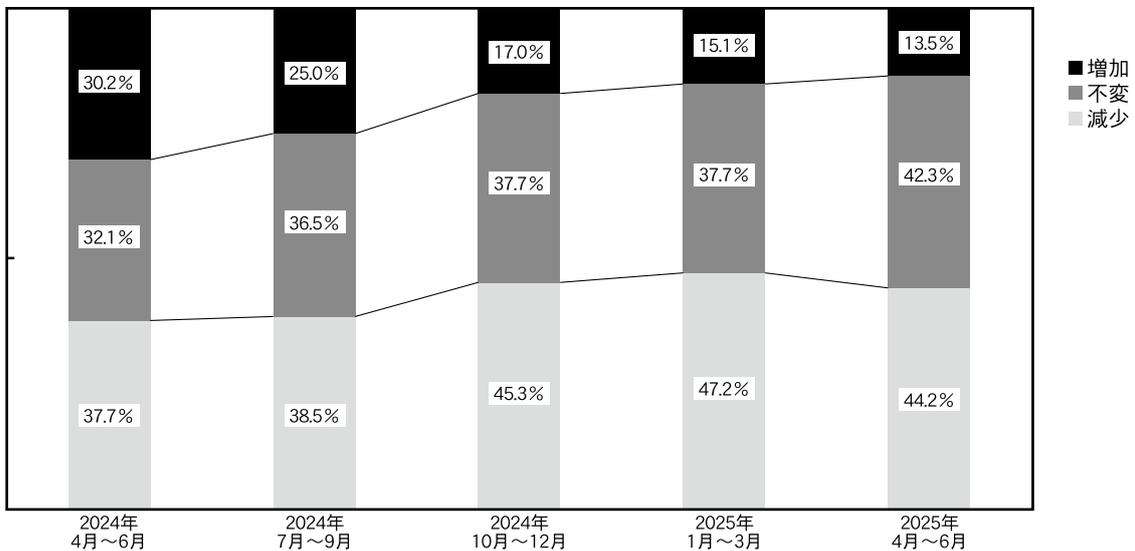
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数52社（前回53社）））

「増加」と答えた企業の割合は、13.5%（7社）に減少（前期比▲1社）している。

「不変」は42.3%（22社）に増加（前期比+2社）、

「減少」は44.2%（23社）に減少（前期比▲2社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数52社））

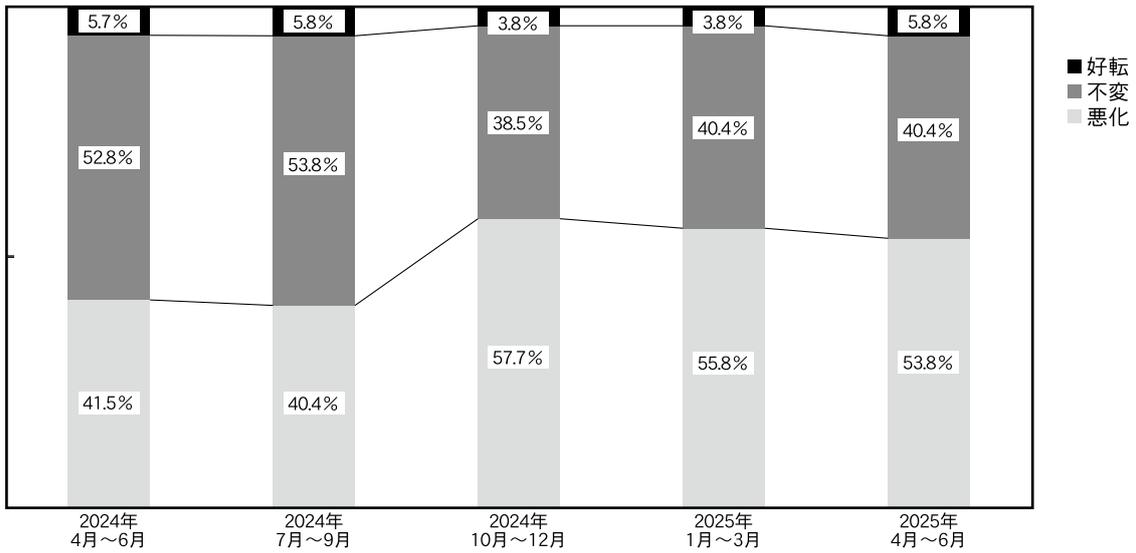
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.8%（3社）に増加（前期比+1社）している。

「不変」は40.4%（21社）で前回と変化なく、

「悪化」は53.8%（28社）に減少（前期比▲1社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

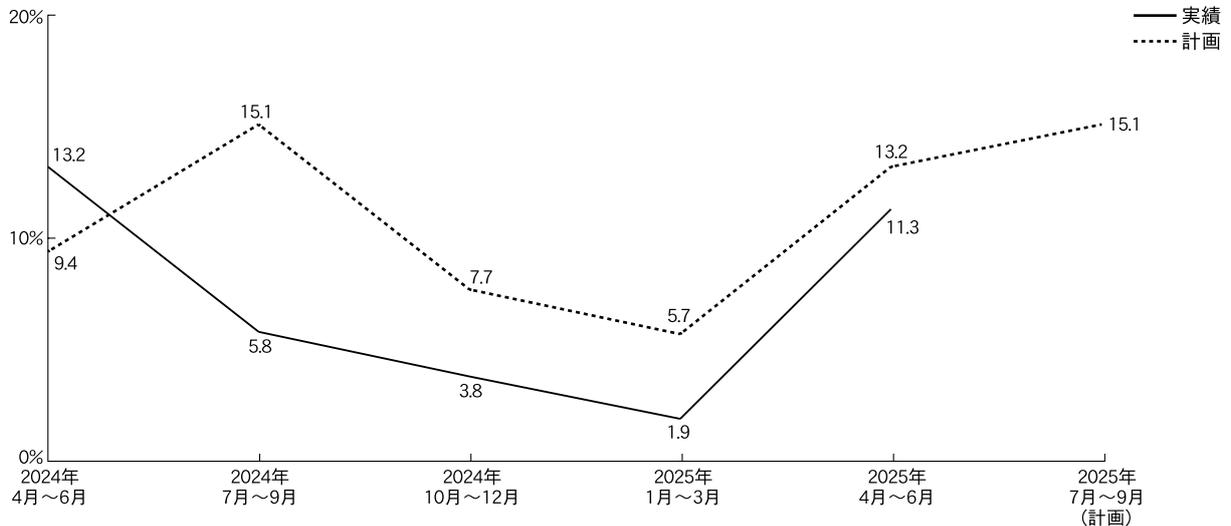


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は11.3%（6社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」「車両・運搬具」「付帯施設」が2件ずつ、「OA機器」が1件であった。

来期の計画については、15.1%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「建物」「OA機器」が3件ずつ、「サービス」が2件、「車両・運搬具」「付帯施設」が1件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

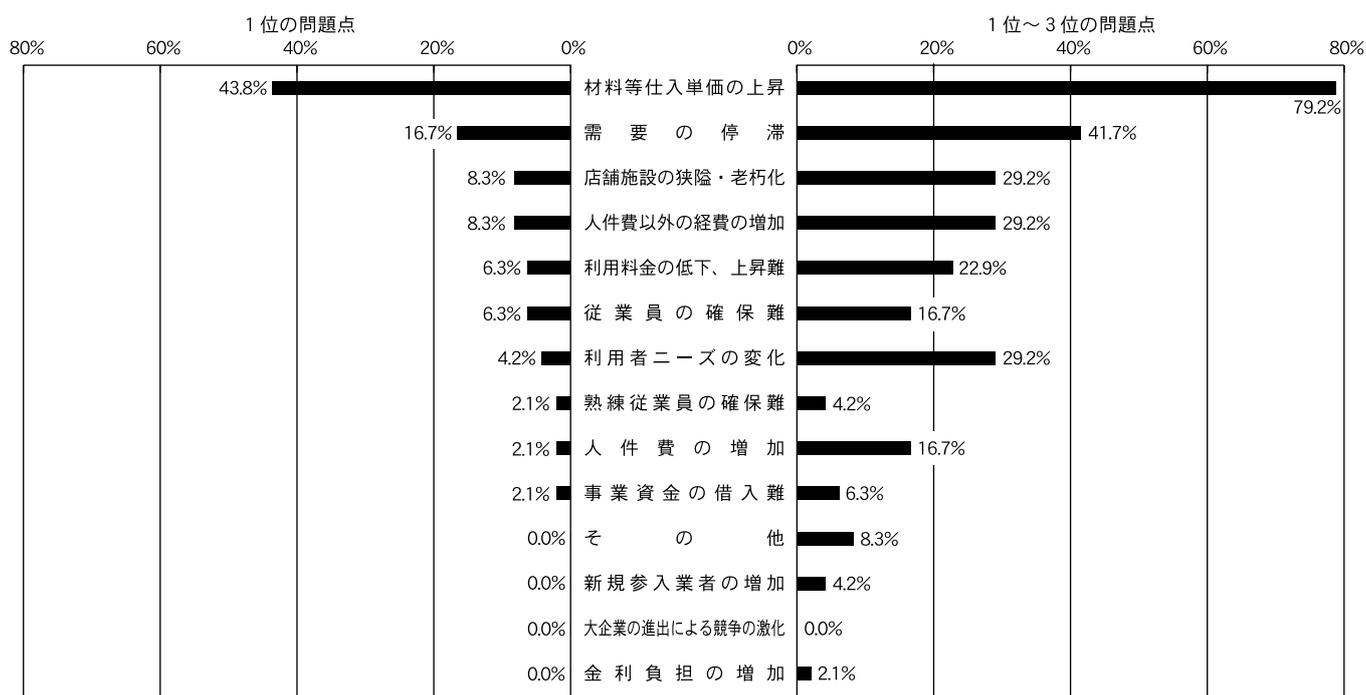
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の43.8%（21社）であり、2番目は「需要の停滞」の16.7%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料等仕入単価の上昇」の79.2%（38社）であり、2番目も「需要の停滞」で41.7%（20社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.8
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	45	84.9	38	71.7
3人～5人以下	8	15.1	11	20.8
6人～10人以下	0	0.0	3	5.7
11人～20人以下	0	0.0	1	1.8
合計	53	100.0	53	100.0